総合計画審議会　第４回市民教育専門委員会

［日　　時］　令和５年10月４日（水）　午前10時～11時50分
［場　　所］　市役所別棟２号館21～23号会議室
［出 席 者］　別紙委員名簿のとおり（委員10名中８名出席）
出席委員　井上夏委員、加藤勝委員、草島陽子委員、酒井英一委員長職務代理者、櫻井田絵子委員、佐藤司委員、照井和委員、成澤和則委員
欠席委員　伊藤恭子委員、鈴木淳士委員長
［傍　　聴］　１名
［協議題等］　報告・説明（1）第４回企画専門委員会における説明・協議内容について
委員からの主な意見は以下のとおり

（委員）
○子供の医療費無償化18歳まで拡大は個人的に助かっている。

協　　議（1）第２次鶴岡市総合計画後期基本計画の案について
委員からの主な意見は以下のとおり

（委員）
○住民自治組織への具体的な支援内容を知りたい。藤島の「Hisu花ワークショップ」というグループで、冬にイルミネーションをして、地域の方々が外に出るきっかけとか、住んでいる町に誇りを持ってもらう事業をしており、協賛をいただいて活動しているが、どのような支援があるのか。（暮らしと防災（１）ア③）
→（事務局）ここでいう住民自治組織は町内会や住民会、地域によって呼び方は違うがそういった組織と、コミュニティセンターとか活動センターレベルで事務局を持っている広域的な組織を想定しているため、ワークショップグループの活動は支援対象とはならないが、委員が活動されているグループの目標とするところは住民自治組織も同じところを目標にしていると思うので、素晴らしい活動だと感じている。

○不登校の子ども達の心のケアをどう考えているか。
→（事務局）小中学生においても、不登校の子どもが増えている。まずは、学校、家庭、地域、必要に応じて医療への紹介など丁寧に支援をしている。取組みの先進的な事例も学びながら、検討していきたい。

（委員）
○「人口減少に伴い、住民一人ひとりの役割は増える」、これが基本であり、いかに住民の意識を高めるかは、私ども住民自治組織や行政の仕事であると思っている。コロナ禍に伴い住民相互の意識が希薄化しているため、なかなか難しいが、時間をかけても積極的に進むべきだと思っている。

○防災について、消防団に対する行政の積極的な関わりを非常に期待したい。消防団員の待遇改善や、地域住民が期待するような組織改編をお願いしたい。

○ごみの減量の現状を知りたい。ごみの問題も住民の意識が非常に重要であり、啓発に努めてもらいたい。

→（事務局）人口減少に伴い、ごみの量は全体としては減っているが、１人当たりのごみの量はほぼ横ばいに近く、全国平均からするとかなり高めであり、KPI を設け、今より１人当たりのごみの量を減らす努力をしていきたいと考えている。加えて、ごみの量を減らすだけなく、循環に持っていきたいと考えており、燃やして終わりではなくて、プラスチック類などは循環型社会を形成していきたいと考えている。

全体のごみの量　　：令和４年度約 41,000t、平成 24 年度約 49,200t（約２割減）

１人１日当たりのごみの量：令和４年度 604 ｇ、平成 29 年度 579g、平成 24 年度 592g、

○市としては基本的に小中一貫校でいくという考え方であるか。

→（事務局）今も小学校と中学校の連携を図っているが、さらにもう一段上の小学校と中学校で一貫した教育プログラムを進めていく。ただ、その時、一つの学校にするのか、学校をそのままでプログラムを進めていくのか、いろいろな形態があるので、小中一貫教育の基本計画を示して、各中学校単位で議論を進めていただく、それが基本的な考え方となっている。

○学校給食の関係の KPI で、「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合を中学生だけ数値を上げて変更しているが、何か理由があるのか。（学びと交流（6））

→（事務局）令和４年度のアンケート結果で、中学生がおいしいと思う割合が 64.2%と KPI を超えたので、指標を見直して引き上げている。日々給食の提供をする栄養士が新メニューを考えたりしながら、おいしい給食を引き続き提供できるように努めていく。

（委員）

○東京オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）について、市として具体的にどういうものがあるのか。

→（事務局）今現在、市としてはパラリンピックのレガシーが大きいと思う。事前合宿でドイツのボッチャのパラリンピック代表の選手が来鶴しているが、それ以前にも平成 30 年にドイツのチームが鶴岡市で事前合宿をしたことに伴い、ボッチャ競技を市でも広く推進してきたところである。ボッチャはもともと障害者のスポーツであるが、実際にやってみると障害のある方も無い方も一緒に取り組める競技であり、これから共生社会を実現していく上でも重要なツールであると思うので、今後ともそうした種目の普及に取り組んでまいりたい。

○国際交流に関連して、最近身近な外国人の方が「予防接種を受けたいが、どうしたらいいか分からない」と言い、周りの皆で知恵を絞ったことがあった。少し分かりにくい部分があったので、そういう部分にも力を入れていただきたい。

→（事務局）予防接種や健診などで通訳が必要かどうかなどは、健康課で確認をしているし、国際村でもそのような相談を受けた時は健康課に繋ぐなどの対応をしている。周知の方法が分かりにくか

ったということだと思うので、周知の方法にも努めていきたい。

○若い世代から「鶴岡が好き」と言って戻ってきてもらいたい。我々大人は、引き続き、あんなに良い所だ、こんなに良い所だ、素晴らしい所だとアピールしていきたい。

○防災無線が全く聞き取れないときがあって、確認をお願いしたい。
→（事務局）防災行政無線について、相談があれば、毎回音達の調査を行っているが、最近の家は断熱効果が高く、家の中まで聞こえるかどうかは怪しい部分もある。何かあったなと思ったら、気づきの第一歩として、スマホを見るとか、テレビをつけていただきたい。

○消防団への入団は、本人にやる気があっても家庭の理解がないと成立しないものであり、市でも何かケアできるのではないか。
→（事務局）令和４年度から、団員報酬を団にではなく、個人支給に変更しているほか、令和５年度には基本団員の報酬を 20,000 円から 36,500 円に増額している。また、大会への出場や普段の負担をどのようにして軽減できるかなど、消防団と一緒に検討を進めている所である。

（委員）
○移住、定住の促進について、専門職員の配置を行い相談、情報発信強化の施策を評価する。しっかり機能していく過程を見守りたい。ふるさと会との関係強化について、子ども世代にまで家族全体で興味を持つような体験企画などの情報発信を期待する。

○若者の地元回帰、地元就職の促進について、学生と地域のつながりを深める方向について確認した。具体的な施策を期待する。

○暮らしと防災（4）過疎地域の活性化で、成果指標を「ビジョンをもとに活動している団体数」に変更したことについて、ビジョン策定のガイドラインや指導者など支援体制はあるのか。
→（事務局）市の支援として、マニュアル等はないが、既に策定済みの団体の取組みを事例紹介したり、ワークショップの開催支援やアドバイザー職員の派遣制度があるので、そういったものを活用いただいてビジョンづくりを支援している。

○暮らしと防災（6）の KPI で、温室効果ガスの削減の基準年を古くしたのはどうしてか。
→（事務局）初めに、成果指標の表中「項目」の 2015 年を 2013 年に訂正願う。今回、基準年を遡ったのは、CO2 排出量を 2050 年までゼロにするのが世界的な目標であり、日本でも 2013 年の CO2 排出量を 2030 年までに 46％減、2050 年には CO2 排出量ゼロを目標としている。そのようなことから、国の動向に合わせて 2013 年の温室効果ガス排出量を現状値基準とし、また、市の総合計画が 2028 年までなので、割り戻して 44％に改正している。

○暮らしと防災（6）の KPI について、これまで成果指標としてきた「ごみの資源化率」は、今後 KPI から外れ、見ていかないのか。
→（事務局）ごみの資源化率は今後も求めていくが、重量比で算出しているため、ごみの軽量化に伴

い正確に把握できないことから、成果指標としては用いないことに変更した。

○医療について、予防検診受診率の向上については、技術面の向上だけでなく、がん検査費用の自己負担率の軽減策や検査で生じる痛みの軽減（マンモグラフィーからMRIへ）など、受診者目線の多角的な取り組みを望む。（福祉と医療（2））

（委員）

○6月15日だったと思うが、防災行政無線を用いた緊急地震速報訓練があった。その日、本校では定期試験があり、できるだけ静寂な環境で試験を受けさせたいという気持ちがある。訓練のことを把握している学校職員もほとんどおらず、防災無線はどこにあるのか等大騒ぎした。防災は非常に大事であるが、やり方はもう少しいろいろな方面の意見を聞いた方が良いと思う。
また、スマートフォンの一斉鳴動も平日の日中にあったが、適切な運用について、いろいろな方面の意見を交えて議論していただきたい。

→（事務局）国が全国一斉で実施する訓練と、市が行う津波訓練のようなものがある。国の訓練の場合はコントロールがきかないものもあるため、広報やメール等で事前周知を徹底していきたい。

○KPIで1人当たりの家庭系ごみの排出量を減らすことを書いているが、事業系ごみの排出量削減はKPIに設定しないのか。（暮らしと防災（7））

→（事務局）KPIは、市民全体に関わる部分ということで家庭系ごみに限って指標としている。
また、暮らしと防災（7）ア③では「ごみ処理手数料の適正化などによる事業系ごみの発生抑制と資源化を推進」していくとしており、今後、事業系ごみの肥料化・堆肥化などのリサイクルや食品ロスを少なくする取組みを進めていく中、再利用に比べ、焼却は安価になっており、事業を営むとなると安価な方向に流れやすいので、費用バランスを考えさせていただき、事業系ごみを再資源化に持っていけるような誘導策をとっていきたい。

（委員）

○消防団だけで団員を確保するのは大変難しい問題になってきている。地域コミュニティの方々からも、団員と一緒に確保に努めていただきたいし、市からも積極的に関与していただきたい。

→（事務局）消防団員の確保は、消防団を維持していく上で最も課題としているところである。委員ご指摘のように、消防団だけでなく、地域、自治会や自主防災組織など地域住民の理解を得ながら団員確保に力を入れていかなければならないと感じている。

○消防団協力事業所表示制度により事業所の加入促進を図っている。実際火災が起こった時、消防団員を出してくれる事業所と対応が難しい事業所があると思うが、どのように考えているか。

→（事務局）現在、市全体で協力事業所は81あり、約650名の団員が協力事業所で勤務している（全消防団員約2,800人中、サラリーマンは81%・約2,200人。内650名が協力事業所で勤務）。
協力事業所について、消防団の必要性や災害時の対応の協力など積極的に伝えながら、協力事業所への加入促進にも力を入れていきたい。

（委員）

○学びと交流（1）エ 施策の方向で、「鶴岡型小中一貫教育基本計画を策定し、…検討を行います」とあるが、小中一貫教育の基本計画は教育の充実策が盛り込まれ、学校の適正規模や通学方法、施設整備などは盛り込まれないと思っており、「策定し、…検討する」だと読み取り方によっては、誤解されるのではないかと思った。「基本計画を踏まえ、…検討していく」などはどうか。

また、主な施策①に「小中一貫教育の教育効果を総合的かつ多角的な視点から調査、研究し」とあるが、小中一貫教育が令和７年度から始まれば、教育効果や課題も出てくると思うので、「教育効果等を踏まえ、…検討していく」はどうか。

○これからの鶴岡の教育の充実策として、小中一貫教育を進めていくと教育委員会で捉えていると思うので、学びと交流（1）エよりも、アの「たくましさ・優しさ・賢さを育む学校教育の推進」に、小中一貫教育のことも記載して、これからの鶴岡の教育の充実を図る一つの施策であることを明示した方が良いと思う。

→（事務局）表現の整理を考えたい。

（委員）

○「鶴岡の教育の特色は何か」と聞かれることがあり、鶴岡の小中学校の児童・生徒は、「親子で楽しむ庄内論語」を活用している話をする。先日、致道館文化振興会議で論語作文の優秀作品発表会を開いた。素晴らしい作品が多くあって、大人が忘れかけたことを指摘されたようなことが結構あり、非常に感激して拝聴した。

致道館教育の特色として、「個性の伸長」「自学自習」「会業の重視」など言われており、それが今の教育に合致していると多くの識者が指摘しており、これが根底にある鶴岡の学びの特色ではないかと私自身は思っている。 学びと交流（1）オ⑥ の「地域の特色を生かした」に、致道館教育というような文言を入れるよう検討をお願いしたい。

協　　議（2）その他

委員からの主な意見は以下のとおり

（委員）

○今月から、鶴岡駅前のFOODEVERの運営が鶴岡市に移ったが、今後どう活用していくのか。

→（事務局）マリカ東館１階部分について、事業がなかなかうまく進まない状態だったので、契約解消となり、所管するのは市建設部都市計画課になる。観光案内所の機能は継続するほか、今入店している店舗も引き続き営業活動するようである。